

よみがえる！中井の郷土資料

その7

通い徳利

郷土資料から分かること

昭和から現代にかけて、酒容器として広く使われているのはガラス製の一升瓶です。その以前、江戸時代から大正期までは陶器製の「通い徳利」が一般的でした。客が徳利を持参し、酒販店で酒を購入する方法は、破棄物を出さないエコなスタイルともいえるでしょう。通い徳利は首が細く胴が膨らんだ独特の形状をしており、江戸時代には釘などで簡単な模様が描かれるなど、シンプルな意匠が特徴でした。明治期以降、交通網の発展により、大量生産された通い徳利が瀬戸物産地から各地に流通しました。この徳利には、店名や屋号などの意匠が記され、店舗の宣伝に活用されました。また、瀬戸物産地からは、店へ徳利を販売するセ



中村屋



植木酒店



小川酒店



ヤマギシ



ヤマキ



カネタ

ールス活動も行われていたようです。

中井町には、明治から大正期に流通した「通い徳利」がいくつか保存されています。これにより、「中村屋」「植木酒店」「小川酒店」という3店舗が存在し、それぞれの屋号が「ヤマギシ」「ヤマキ」「カネタ」であることが分かっていきます。特に小川酒店の通い徳利には複雑な意匠が施されており、古文書解読に詳しい飯田直人さん（あつぎ郷土博物館・学芸員）の見解では、「にひやくきゅうじゅうに」と読めるそうです。とくに

小川酒店
複雑な意匠

最後の文字、私には「シペ」としか読めませんが、アラビア数字の「2」だとのことです。3店舗の所在地が判明すれば、当時の中井町民が利用していた商圈をより具体的に推測できるはずです。地域の商文化を知るための手がかりとなるこの「店舗の所在地」をご存じの方がいらっしやれば生涯学習課にお知らせください。

文・槐真史

(中井町教育委員会生涯学習参与)

校閲・大野一郎

(あつぎ郷土博物館・学芸員)

ちようちよう発し

その22

「井ノ口歩道橋」

井ノ口小学校への通学に使われてきた井ノ口歩道橋は、昭和44年度末に県

が設置し、地域を特徴づけ、親しまれてきました。その後、町に移管された歩道橋。平成24年度に調査を行ったところ、コンクリートの浮きや剥離、鉄筋の露出などが確認され、平成28年には、老朽化に加え、建設当時の規格で建設されており、耐震性にも不備があることがわかり、撤去を考えざるを得ない状況となりました。歩道橋から門扉もなく、外部から侵入しやすいという課題も抱えていました。

そうしたことから、町は歩道橋の撤去に向けて、小学校前の歩道の整備を行い、合わせて、町が長年、県に要望してきた井ノ口公民館前の交差点周辺は、JAかながわ西湘側の歩道が、今年度中に整備されるめどが立ちました。それらを受け、令和6年度には歩道橋撤去の設計、そして今月に取り壊し工事が始まります。大掛かりな工事になりますので、工事中はご不便をおかけしますが、なにとぞよろしく願います。

学校にはそうした動きをお伝えし、児童や保護者にもお知らせしてききました。通学路に関しては、学校、教育委員会より、学校前にある横断歩道を正門近くに移し、信号を設置する希望も出されました。それを受け、町として松田警察署に要望書を提出しています。しかしながら、県警には新たな信号機を設置する考えがないこと、校門に直結した横断歩道は飛び出しなど危険性が高いことなどから、県警の預かりになっています。



委員会は、学校前